

イロハモミジの育て方

育てやすさ：★★★☆☆ ふつう

日当たり：半日陰～日向

実がつくまでの年数：3～4年

株を健全に育てるには

水はけと日あたりがよい場所を好む

苗木のうちは株もとにワラを敷くなどして霜を防ぐ

春～秋はじゅうぶんに水やりをする

植え替えの適期 11～3月の落葉期

用土 赤玉土（中粒）：腐葉土=7：3

※園芸用培養土で代用も可能です。

庭植えの場合

①幅・深さとも根鉢の1.5倍ほどの大きさの穴を掘ります。

②布ポットの場合は側面に切れ目をいれ、そのまま植えます。ポリポットやプラスチック鉢の場合は根鉢を抜き、根を軽くくずします。

③木の根元が地表より数cm高くなるように穴の底に用土を入れ、穴に水を入れながら根となじむように、すき間を用土で埋めます。水を与えると株が沈むので、最初は高めに植えます。

④株もとの用土を手で押しかためます。

※水はけが悪い場所では植穴の底に5cmほど砂利を敷いてから植えます。

鉢植えの場合

鉢の底から根が伸び出てきたら鉢の中が根でいっぱいになっているので、一回り大きな鉢に植え替えます。

①根鉢より1回り大きい鉢を用意します。

②布ポットの場合は側面に切れ目をいれ、そのまま植えます。ポリポットやプラスチック鉢の場合は根鉢を抜き、根を軽くくずします。

③鉢に用土を入れ、株を据えたら、水を入れながら根となじむように、すき間を用土で埋めます。

④株もとの用土を手で押しかためます。

水やり 庭植えの場合は土がひどく乾かないかぎり必要ありません。鉢植えは夏は朝と夕方、春と秋は1～2日に1回程度、冬は土の表面が乾いたらたっぷりと与えます。

肥料 冬に油かすや緩効性化成肥料（N・P・K=8-7-5など）を寒肥として株のまわりに施します。追肥は初夏に油かすや緩効性化成肥料（N・P・K=8-7-5など）を施します。

剪定 ほとんど必要ありませんが、大きくしたくない時は11～12月の落葉後のなるべく早いうちに剪定し

ます。このとき芽の向きに注意し、地面と水平方向についている芽のすぐ先で切ると枝が水平にきれいに出来ます。

病害虫

カミキリムシ

症状：枝や幹の中を食害するため、著しく衰えたり、枯れたりします。

予防：カミキリムシを見かけたら補殺します。

対処：根元に木くずが出ていれば、幼虫が穴を開けて幹に侵入していますので、木くずを取り除いた穴にカミキリムシの幼虫用殺虫剤（キンチョール E など）をノズルを使用して注入しますが、食害されると薬剤での防除は難しくなります。

アブラムシ

症状：葉の汁を吸うため、美観を損ねたり生育が悪くなったりします。すす病を誘発したりします。

対処：スミチオン乳剤などを散布します。

うどんこ病

症状：葉が白い粉をふいたようになり、生育が悪くなったり、枯れたりします。

予防：風通しがよい場所の方が発生しにくいです。

対処：モレスタン水和剤などを散布します。

※薬剤散布に際しては必ず商品の説明をよく読み、記載内容に従って正しく安全に使用してください。